

社団法人 日本補綴歯科学会 *Japan Prosthodontic Society*

発行人 赤川安正 編集 広報委員会

〒170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9

社団法人 日本補綴歯科学会

Tel 03-5940-5451 Fax 03-5940-5630



## Letter for Members No.24 2007

<http://www.hotetsu.com/> 2007. 1.10 発行

《コンテンツ》	受賞者の声	10
理事長挨拶	関連学会報告	14
支部長挨拶 2年間の活動総括	海外留学先紹介	17
支部学術大会報告	第116回大会の開催にあたって	18
専門医制度 Q&A	関連学会案内	19

# 歯科補綴の未来価値を創る 赤川執行部 2年間の流れ



社団法人 日本補綴歯科学会  
理事長 赤川安正

「咬合・咀嚼が創る健康長寿」を学術大会のメインテーマに掲げ、「歯科補綴の未来価値」の創造に向けて渾身の努力を続けた約2年間でした。副理事長、理事、監事、委員長、副委員長の方々、また委員会の委員の皆様、そして代議員、会員の皆様、事務局の皆様すべてのご支援とご協力に心からお礼を申し上げます。

第113回大阪大会、第114回新潟大会の成功を受けた第115回札幌大会は、年1回化の最初として企画の目的・対象を明確化した多彩なプログラムのなかで過去最多となる2,500名もの参加者を集め、新しいイメージの学術大会としての一步を踏み出しました。第116回神戸大会でもこ

れらの試みがさらに進みます。

MEDLINE 掲載を目指す Prosthodontic Research and Practice (PRP) は Associate Editor に世界の歯科補綴のリーダー達をも組み込み、年4号化しました。しかしながら原稿の集まりは十分とはいえず、会員の皆様にはぜひともこのPRPを育ててほしいと思います。その手助けとなるPRPセミナーは第114回新潟大会を皮切りに各支部大会でも続けました。

国際化では、目標とした中国やインドとの交流が実現し、来年5月のAsian Academy of Prosthodonticsと共催(神戸)、10月のGreater New York Academy of Prosthodonticsとのjoint meeting(東京)など、会員主体の海外交流は今後一層拡大するものと思われます。用語はブラッシュアップを進め、これらが採用されるよう厚生労働省や関係団体に働きかけました。

医療の質の向上と補綴歯科の専門性の確立では、平成17年8月の臨時総会で新しい専門医制度を発足させました。日本歯科医学会認定医・専門医制協議会での協議を経て日本歯科医学会で「可」とする承認をいただき、本年1月に厚生労働省に広告開示の申請をしました。近いうちに開示の許可をもらうべく、最後の努力を続けています。

法人化後の規程の整備は重点項目のひとつでしたが、無事最新版の規程集が完成、さらに実情に合うよう整備を続けています。症型分類は、完成を目指して第2回のトライアルを進めながらデータベース化も始まり、平井次期執行部で完成されます。

社会とより向き合う学会とするため、また、学会活動の成果公表と補綴の周知を目指し、ホームページのリニューアルを行い、アクセス数は格段に増加しました。メディアの方々を集めたプレスセミナーも2回開催しました。Letter for Membersの充実と併せて、会員と市民へリアルタイムで情報を提供する体制もかなり整ってきた感じがします。市民フォーラムは合計19回行って公益性の向上に努め、生涯学習公開セミナーもすべての支部大会で開催でき、地域密着・地域貢献は着実に進みました。

教育問題では教育基準の改訂を行いましたし、社会保険関連では、平成20年度の診療改定時に

学会主導の改定案を提示すべく準備を進めました。エビデンスに基づくガイドラインもいくつか作成でき、それらのガイドラインを基に改定の提案を行うことになる手はずです。

事務は鈴木前局長と小西現局長が事務局および口腔保健協会のスタッフと協力して着実に進めてくれました。

以上、約2年間にわたり、掲げたマニフェストの実現に向けて活動してきましたが、道半ばであることは否めません。限られた残り時間のなかで最後まで努力を続け、良いかたちで平井次期執行部へバトンタッチをしたいと考えています。

会員の皆様とともに「社団法人としての大きな義務と責任」を改めてここに確認し、それを共有しながら「歯科補綴の未来価値」を創ろうではありませんか。皆様の一層のご理解とご支援を心からお願い申し上げます。

平成18年12月14日

## 支部長挨拶 2年間の活動総括

### 東北・北海道支部



支部長 渡邊 誠

平成17年4月より東北・北海道支部長を担当させていただき、この間、2度の支部総会ならびに学術大会を無事、開催することができました。両大会の大会長をはじめ、会員各位のご尽力の賜物と、深く感謝申し上げます。

この2年、日本補綴歯科学会は大きな変革の時期を迎えました。いうまでもなく最大の変革は学会の社団法人化でした。また、長らく春秋の2度開催されておりました総会・学術大会が、年1度の開催に変更されましたことも、支部活動に大きな影響を及ぼす出来事となりました。任期を終えるにあたり、今期の活動を総括いたしたいと存じます。

第1は、支部規定の改定です。本年度、法人化に伴う支部会則改正案の審議を行い、支部総会における承認を経て、即日、施行することができました。第2は、支部学術大会の充実です。学術大会の具体的な内容は、本リーフレット中に別途記載がございますので、省略させていただきますが、昨年度（大会長：大畑 昇教授）、本年度（大会長：佐々木啓一教授）のいずれの学術大会におきましても、本部の関連委員会との連携のもと、生涯学

習公開セミナーを実施していただきました。また本年度は、大学所在県を離れ、山形県にて、当地の歯科医師会と共同での開催となりました。両年度とも、地域でご開業の先生に生涯学習公開セミナーや特別講演の講師をお努め頂きましたことで、より臨床に直結した議論を重ねることができました。これらはいずれも、支部がその当該地域（北海道、青森県、岩手県、秋田県、宮城県、山形県、福島県）において本学会の目的を達成するという、支部設置の目的に適うことであり、今期の成果に数えたいと思います。

その一方で、法人化に伴って支部会計の手続きが大幅に変更され、それに伴い若干の混乱が生じましたことで、大会開催校にご迷惑をお掛けすることもございました。また、代議員制度が発足し、代議員と本部役員の兼任は妨げられましたことから、支部から本部役員を選出頂きました場合に、その分の代議員数を追加推薦する必要が生じることとなりましたが、その際、どのような基準、手続きでその代議員を選出するかなど、来期に積み残した課題もございました。

この2年、支部内外の皆様の多大なご支援、ご協力を賜り、無事に支部の運営ができました。衷心からの感謝を申し上げますとともに、今後とも東北・北海道支部活動にご支援、ご協力をお願い申し上げます。

## 関越支部



支部長 小出 馨

本学会の社団法人化と学術大会年1回化に伴い、関越支部では一般の歯科医師や市民の方々に歯科補綴の専門性を広く認識していただくため、地域に密着した魅力ある支部活動を推進するとともに、会員相互の親睦を深め支部活動のさらなる活性化と円滑化を試みてきました。

平成17年度総会と支部学術大会は、平成18年1月21日(土)に高崎市で大会長野村修一教授(新大)のもと開催させていただきました。一般演題9題と、二川浩樹教授(広大)による研究教育研修『PRPスキルアップセミナー』、山根源之教授(東歯大)による特別講演『全部床義歯補綴の難症例を考える—高齢者の口腔粘膜疾患への対応—』、引き続き翌22日(日)には山根教授の講演を受けて『全部床義歯補綴の難症例を考える—解決のKeyはこれだ—』をテーマに加藤一誠教授(松歯大)と大川周治教授(明海大)による生涯学習公開セミナーを開催し、活発な質疑応答がなされました。2日間のプログラムはいずれも群馬県歯科医学会との共催で、多くの群馬県歯科医師会の先生方のご協力とご参加をいただきました。

平成18年度総会と支部学術大会は、大会長松崎正樹先生(新潟県歯科医師会)、準備委員長小林博助教授(新大)のもと平成18年10月21日(土)に新潟県歯科医師会との共催で行い、一般演題10題で、『歯科補綴環境の安全管理』をテーマとした生涯学習公開セミナーを併催しました。田中茂教授(十文字学園女子大)による「歯科治療における曝露防護—特に補綴治療に関して—」と、高木律男教授(新大口外)による「歯科補綴治療における感染対策」の2題の講演がなされ、歯科医療従事者の健康を脅かす興味深い内容に活発な質疑応答と意見交換がなされました。

美しさと強さの融合 'GC'  
MFRナノハイブリッドテクノロジーの導入で  
グラディアがレベルアップ 健適用外  
GRADIA FORTE  
Total Esthetic Harmony NEW!  
超高強度MFRナノハイブリッドタイプ  
ジーシー グラディア フォルテ  
医療用具承認番号 21700BZZ00065000号  
発売元 株式会社 ジーシー / 製造元 株式会社 ジーシーデンタルプロダクト

また、関越支部では、栃木、群馬、新潟の3県で順番に地元の歯科医師会と共催で学術講演会を支部発足以来毎年開催しています。平成17年11月21日(土)には新潟で上田実教授(東大医科学研究所)による講演会『再生医療は歯科の未来を変えるか』を開催し、平成19年3月18日(日)には栃木で小出馨(日歯大新潟)による講演会『患者さんが満足してくれる有床義歯の臨床—噛める義歯のポイント—』の開催が予定されています。今後も3県の歯科医師会との連携のもと、工夫をこらして地域のニーズにそくした企画を立案し、支部活動の活性化を推進して行きたいと考えております。

## 東関東支部



支部長 大川周治

本学会が社団法人として新たにスタートして以来、2年が経過しようとしています。この間、東関東支部としては支部活動を充実させるべく、下記のような活動を行いました。

1) 支部理事会の年2回開催(従来は、学術大会中に1回のみで開催でした)

2) 学術大会の開催

平成18年2月19日(日)、幕張プリンスホテル(千葉)において、櫻井薫教授(東歯大)を大会長として第9回学術大会を開催しました。200名を超える先生方が参加され、活発な討議が行われました。今年度は平成19年2月25日(日)、ラフレさいたま(さいたま市新都心)において、大川周治(明海大)を大会長として第10回学術大会を開催する予定です。

3) 千葉市民文化大学講座への講師派遣

佐藤亨教授(東歯大)のご尽力により、今年度より東関東支部における“市民フォーラム”として、千葉市民文化大学講座健康医学科(会場:千葉市文化センター、対象:千葉市民、定員:約150名でほぼ全員参加)に毎年2名の講師を派遣することになりました。今年度は、平成18年7月12日(水)に「歯と身体の健康」というテーマで佐藤亨教授(東歯大)を、平成18年7月19日(水)に「噛み合わせの大切さ—入れ歯の役割—」というテーマで大川周治(明海大)を、本学会から講師として派遣いたしました。

4) 千葉県歯科医師会後援による社会連携

平成18年2月19日(日)、幕張プリンスホテル(千葉)において、学術大会とともに、千葉県歯科医師会との連携により、学校法人服部学園の服部幸應理事長を講師として招き、県民公開講座「食育のすすめ—大切なものを失った日本人—」を

開催しました。参加者は2,000人を超えました。

#### 5) 埼玉県歯科医師会後援による社会連携

平成19年2月25日(日)ラフレさいたま(さいたま市新都心)において、学術大会とともに、埼玉県歯科医師会との連携により、生涯学習公開セミナーおよび市民フォーラムを開催する予定です。生涯学習公開セミナーでは、岡根秀明臨床教授(明海大)に「有床補綴臨床の確実性向上をめざして」、田端義雄臨床教授(明海大)に「垂直歯根破折から考えるファイバーポストコア」というテーマ(仮題)で、また市民フォーラムでは安井利一教授・副学長(明海大)に「健康とスポーツ—口の役割—」というテーマ(仮題)で講演していただく予定です。

以上、東関東支部における2年間の活動について述べさせていただきました。今後とも先生方のご理解とご協力をお願い申し上げます。

### 東京支部



支部長 石上友彦

東京支部では、18年度からの学術大会の年1回化に伴い、支部活動のさらなる活性化を目標に活動を行ってまいりました。支部学術大会を充実させるために、まず、平成17年度は、日大の松村英雄教授に大会長をお願いし、従来1日の開催であった支部学術大会を一般口演、特別講演とは別な日にシンポジウムを開催し2日間の日程を組みました。東京都歯科医師会にも共催を頂き、両日ともに多くの参加者を得ることができました。

平成18年度には、昭和大の佐藤裕二教授に大会長をお願いし、従来2月に開催していた支部学術大会を秋の本部学術大会に変わる学術大会として位置付ける目的で11月に開催し、特別講演1、一般演題17、専門医認定ケースプレゼンテーション5題、さらに同日の夕方より生涯学習公開セミナーを2題と、この大会も東京都歯科医師会の後援を得て盛会となりました。

また、東京支部は会員数が最大の支部でもあり、学会の法人化による社会連携の強化を率先して行うことを目的として、市民フォーラムを現在までに2回開催し「補綴」の一般社会への浸透を図りました。市民フォーラムは支部に所属する大学の学園祭と共催する形式を採り多くの方の参加を得ることができました。さらに、地域の歯科医師の先生方との結び付きを強め、開業の先生方の支部会への意見を反映させるために、支部理事会の構成も大学関係者以外の支部理事定員枠を広げました。

学会の変遷に伴い、支部として新たな活動を目

指してまいりました。これは、東京支部会員の皆様および関係して下さった方々のご協力の賜物であると深く感謝しております。

### 西関東支部



支部長 藤田忠寛

新年あけましておめでとうございます。

日本補綴歯科学会が社団法人化されてから、2年が経過しようとしています。本支部では、従来の学術活動に加えて、公益活動の推進をより進めるようにとの本部会の要請と、支部活動の活性化をめざして活動してまいりました。

支部会活動の最も大きな事業は「支部学術大会の開催」にありますが、西関東支部では以前より神奈川県歯科医師会、ならびに、山梨県歯科医師会との共催で行うことによって、その推進をはかってまいりました。

17年度はパシフィコ横浜アネックスホールにおいて、鶴見大・福島俊士大会長のもと、本会会員向けとして、【研究教育研修】「PRPのスキルアップセミナー」中村隆志先生をお願いし、両会員が自由に受講できるように、【生涯学習公開セミナー・座長：長野 忠先生】では、「メタルフリー修復」三浦宏之先生、「ハイブリッド型レジンとグラスファイバーの補綴臨床」新谷明喜先生のご講演をいただきました。また、パシフィコ横浜が会場であったことから、【市民フォーラム・座長：長野 忠先生】「美しい歯で、よく噛んで、若返り」—補綴歯科専門医の役割—細井紀雄先生、「なにを、いつ、どう食べるか?」—歯からみた生活習慣病—飯島国好先生というテーマで、多くの市民の方々のご来場をいただくことができました。

18年度は、平成19年1月21日に、神奈川県歯科医師会館を使用して、両会の学術大会の併催と、【生涯学習公開セミナー・座長：豊田 實教授】「少数歯欠損への対応—デンジョンメイキングのつぼ—」をテーマに、—臨床から観た意志決定のカー宮地健夫先生、—補綴方法選択とインフォームドコンセントのエビデンス—山森徹雄先生を予定しております。会場の都合から、市民フォーラム、教育研修については残念ながら催すことはできませんでしたが、歯科医師会主催の【教育講演】として「予防歯科時代における患者対応」隈元孝子先生(白水貿易)も予定されています。

以上が、2年間の学術大会で併催された特別講演、セミナーの開催状況です。一般口演発表は、それぞれ別会場にて開催いたしました。ポスターセッションについては、合同で実施すること

により、相互の理解、交流ができたようです。

日本補綴歯科学会のもう一つの事業として、専門医の認定がありますが、その申請プレゼンテーションも、17年度は4題、18年度は5題と漸増の傾向にあり、本会のみでなく歯科医師会会員の方々がおいでになられたことから、きわめて有意義であったものと思われました。今後は山梨県での開催などを検討してゆく予定です。

あと3カ月ほどで西関東支部支部長の任期を終えることとなります。歴代の西関東支部支部長、役員の方々の努力により、神奈川、山梨両県の歯科医師会より本支部理事をご推薦いただくことが実現し、本支部の運営にご参加いただくことができたことが上記の結果になっているものと思われまます。西関東支部では、今後も患者さんに十分満足していただけるような歯科補綴診療を提供できるようにするために、また、歯の大切さ、噛むことの喜びをより多くの市民にお伝えしていきけるように、各地域の歯科医師会との連携をはかることによって、その役割を果たしていきたいと考えています。

#### 東海支部

支部長 田中貴信



昨年4月、五十嵐順正先生から支部長を引き継ぎましたが、文字通り、あっという間の2年間でした。支部活動と申しましても、具体的には支部学術大会がすべてであります。平成17、18年度支部学術大会には、いずれも地元の愛知県歯科医師会のご協賛をいただきました。

平成17年度の学術大会は田中が大会長を務め、平成17年11月26(土)、27(日)の両日、愛知学院大学楠元講堂で開催されました。特別講演は徳大の坂東永一教授に「6自由度運動データから見た顎口腔系」、生涯学習公開セミナーは、「補

綴臨床に役立つバイオロジーハイテクリサーチ研究より」なる総合タイトルの下にシンポジウムを行い、愛院大の河合達志教授の「骨形成因子の歯科領域における応用と未来」、尾澤昌悟助教授の「オーダーメイドインプラント医療」を、また吉成伸夫(現松歯大教授)からは「歯周病と心血管疾患の関連性に関わるメカニズム」のご講演を頂き、その後、総合討論を行いました。さらに本部推薦の研究教育研修として、阪大の中村隆志助教授と広大の二川浩樹教授から「PRPのスキルアップセミナー」を行いました。一般演題20題、専門医申請ケースプレゼンテーション1題で、出席者数は275名でした。

平成18年度学術大会は平成18年11月18日(土)、19(日)の両日、宮村一弘愛知県歯科医師会会長に大会長をお願いし、愛知県歯科医師会館で開催されました。特別講演は宮村会長のご推薦で、豊田工業高等専門学校校長、名古屋大学名誉教授の末松良一先生と九代目玉屋庄兵衛先生から「からくり人形の匠に学ぶ」と、きわめてユニークなお話を伺い、実演も見せていただきました。さらに市民フォーラムとして、名古屋文理大学短期大学の松田秀人教授の「よく噛んでダイエット」、および鶴見大の細井紀雄教授の「美しい歯で、よく噛んで、若返る」なる、楽しいお話をいただきました。その外に、一般演題は24題、専門医申請プレゼンテーションとして4題、出席者数は462名でした。

とにかく、学会の法人化、学術大会の年1回化などの、大きな改革の大波に翻弄されつつも、「2日間の学術大会による支部活動の活性化」という本部執行部の指令を至極真面目に受けとめ、物理的、経済的に可能な範囲で、精一杯の学術大会を企画、実行してまいりました。その評価は歴史に委ねるとして(大袈裟)、朝日大教授倉知正和次期支部長のご活躍を、心から期待しております。

#### 関西支部

支部長 江藤隆徳



関西支部では平成17年度の活動として、学術大会および生涯学習公開セミナーを平成18年1月28・29日の両日、京都府歯科医師会の後援で開催しました。一般口演は17題、認定医申請ケースプレゼンテーションは6題でした。生涯学習公開セミナーのメインテーマは「補綴治療における咬合」で、矢谷博文先生(阪大)には「咬合と顎関節症」、藤本順平先生(東京支部)には「補綴治療におけるLongevityの実現—咬合の安定と精度の維持—」

NC VERACIA

ナノテクノロジーと  
機能的形態が融合した 新人工歯 硬質レジン歯

**NC Veracia**

医療用具承認番号 21100BZZ00751

**NC ヘラシア アンテリア**

硬質レジン歯(前歯用)1組…¥780 色調:A1、A2、A3、A3.5、B2  
形態:上顎5形態、下顎3形態

医療用具承認番号 21200BZZ00272

**NC ヘラシア ポステリア**

硬質レジン歯(臼歯用)1組…¥1,040 色調:A2、A3、A3.5、B2  
形態:上下顎各2種

価格は2002年11月現在の標準医院価格(消費税抜き)です。

世界の歯科医に愛用される  
株式会社 松風

本社●〒605-0983京都市東山区福福上高松町11-TEL(075)561-112(代)

という演題で講演していただき、会員外の多数の先生方の参加をいただきました。学術大会年1回化に伴い支部での演題数の増加と、日曜日の午後に生涯学習公開セミナーの開催を希望されることから2日間の開催となりました。

支部として初めての市民フォーラムを、平成18年2月26日に「ばるるプラザ京都」にて開催しました。末瀬一彦先生（大歯大歯科技工士専門学校）に「美しい口元で心豊かな人生を！今、私たちにできること……」という演題で講演していただきました。市民への広報の難しさを痛感いたしました。当日は悪天候のため参加者は少数でしたが目的を十分達成できたと思います。

平成18年度の活動として市民フォーラムを、平成18年11月12日に奈良県歯科医師会との共催で開催しました。「歯からはじまる健康生活美しい口もとで豊かな人生を！」という演題で、末瀬一彦先生に講演していただきました。当日は「奈良県歯科保健フェスティバル」が同時に開催され、大勢の親子に参加いただきました。

平成19年1月28日に学術大会および生涯学習公開セミナーを、奈良県歯科医師会館にて開催いたします。メインテーマは「全部床義歯難症例を見極める」で、鈴木哲也先生（岩医大）には「顎堤吸収が著しい下顎無歯顎症例への対応」、小出馨先生（日歯大新潟）には「患者さんが満足してくれる噛める義歯のための咬み合わせ」という演題で講演していただく予定です。

#### 中国・四国支部



支部長 中尾勝彦  
臨床のためのとして位置けられる補綴歯科学会の一支部として下記の事業を行いました。さらに次年度に向けて新たな試みを始めました。

1) 日本補綴歯科学会中国・四国支部第32回学術大会（平成18年度）を平成18年9月2日（土）、3日（日）、猪野恵一郎会長の下、当番校岡大咬合・口腔機能再建学分野（皆木省吾教授）、近藤一雄先生で開催しました。

2) 平成19～20年度支部役員改選では、岡大の皆木省吾教授が支部長に選出されました。

3) サマースクールの開設について

補綴歯科を専門とする高度専門医療人とその最先端研究を切り開く研究者を育成するために、新たな企画としまして、平成19年8月31日（金）～9月1日（土）ルネッサンスリゾート鳴門（徳島県鳴門市）にて補綴歯科研究サマースクールを開催いたします。本サマースクールは、学会

の指導的立場の会員、学会、大学、医療現場で実質的な活動をしている中堅会員、そして未来を担う若手会員が一堂に胸襟を開いての交流する場をもつことにより、日本補綴歯科学会のよき伝統を受け継ぎ、世界に伍して研究、臨床を切り開き切磋琢磨する土壌と精神が育成されることを期待するものです。教育講演、中堅会員によるセミナー、大学院生、若手研究者の研究発表を通して、知識の共有とその成果に基づき今後の展開についての議論を進めたいと思います。

中国・四国支部の会員だけでなく、全国の会員からの参加を期待しております。

また、平成19年度日本補綴歯科学会中国・四国支部総会および第33回学術大会が、当番校徳大口腔顎顔面補綴学分野（市川哲雄教授）、大会長井上三四郎先生の下、平成19年9月1日（土）～2日（日）徳島県歯科医師会館（徳島市）を会場に開催予定です。皆さんの参加をお待ちしております。

#### 九州支部

支部長 田中卓男



平成17年度の九州支部学術大会は、初めての試みとして中・四国支部との合同学術大会となりました。

これは、全国大会の年1回化に対応した支部学術大会の機能拡充を目指したものです。このたびは、中・四国支部の学術大会準備が中尾勝彦支部長のもとですでに先行されていたことから、九州支部が後から参加する形となりました。さらに、開催地が山口市ということもあり、大会準備のほとんどすべてを中・四国支部が行うこととなり、準備委員長の山根進先生、当番校の広大先端歯科補綴学研究室には多大のご負担をおかけすることとなりました。大会は、平成17年9月3日、4日の両日、右田信行山口県歯科医師会会長を大会長として行われました。500人を超す参加者を得ることができ、特別講演、シンポジウム、生涯学習公開セミナー、市民フォーラムなど多彩なプログラムもきわめて好評でした。全国大会の機能の一部を支部大会に移したいという赤川安正理事長の意図は十分に果たされたものと思われま。

平成18年度には博多および長崎において、市民フォーラムおよび生涯学習公開セミナーが実施され、いずれも多数の歯科関係者や市民の参加を得ました。本年度の九州支部学術大会は、鹿児島市において九州支部単独で10月22日に開催されました。主催は鹿大咬合機能補綴学分野で、大会長は田中卓男九州支部長です。特別講演は、ア

ラバマ大学の鈴木司郎教授による歯科医療の価値観に関するテーマの他、本学法文学部の木部暢子教授による『鹿児島の方言について』という開催地の特性に合わせたテーマで行われ、前夜の懇親会における焼酎パーティーとともに参加者の旅情をかき立てました。また、学術大会前日の土曜日には5大学10講座が参加して、ソフトボール大会が開催されました。4年ぶりの開催であったことや、秋晴れに恵まれたこともあり、非常に盛会でした。

なお、今後の支部学術大会を他支部との合同で行うかどうかについては、九州支部理事会では結論が出されておらず、支部長の判断に任されることになっています。次期支部長は九歯大の鱒見進一教授です。

## 支部学術大会報告

平成18年度中国・四国支部学術大会



猪野大会長挨拶

平成18年度中国・四国支部学術大会は、9月2日(土)、3日(日)、猪野恵一郎先生を大会長として晴天の下、松山市総合コミュニティーセンターで開催されました。一般演題15題、専門医申請ケースプレゼンテーション2題、特別講演「バイオフィルムの研究からの発展」(広大・二川浩樹教授)、生涯学習公開セミナー「欠損歯列の症型分類と難易度評価」(徳大・市川哲雄教授)、シンポジウム「高齢者の心と体」(広大・貞森紳丞助教授、吉田光由講師、岡大・松尾龍二教授)、市民



懇親会のひとコマ：支部長、大会長、学会の華を囲んで

フォーラム「口元の美しさを探る」(岡大・白井肇講師、愛媛県・垂水 修先生、資生堂・上田美江子氏)、PRPのスキルアップセミナー(二川教授)と、超盛りだくさんな企画は、学術大会年1回化に呼応した支部会充実の表れでしょう。他支部の先生方の参加も回を追うごとに増えているのは刺激的です。

当番校の岡大咬合・口腔機能再建学分野(皆木省吾教授)の皆様、後援をいただきました愛媛県、松山市、(社)愛媛県歯科医師会、(社)松山市歯科医師会の皆様、さらに、補綴学会初の開業会員支部長として2期4年の永きにわたり支部活動活性化に尽力されました中尾勝彦先生に深謝いたします。

なお今回の評議員会で平成19年度の支部事業として、坂東永一教授(徳大)を校長とする「補綴歯科研究サマースクール2007」(仮称)の開催が承認されました。8月31日(金)～9月1日(土)の開校を目指し、市川教授(準備委員長)を中心として企画が着々と進められています。全国の青年(自称を含む)よ、鳴門をめざそう!

(広大先端歯科補綴学研究室 津賀一弘)

平成18年度関東支部学術大会



松崎大会長

表記大会を下記の要領で開催しました。  
日 時：2006年10月21日(土曜日)  
10:00-16:30  
場 所：新潟県歯科医師会館(新潟市)

ハイブリッド型硬質レジン

# パールエステ 誕生

口腔内でのツヤの  
持続を実現!!

真球状のフィラーを高充填

保険適用外

歯冠用硬質レジン(管理医療機器)承認番号21600BZZ00301000

カタログ請求はインフォメーションサービス

☎0120-54-1182 受付時間 9:00~12:00/13:00~17:30  
(土・日祭日を除く)

※パールエステは充填用コンポジットレジンではありません

株式会社 トクヤマデンタル 本社:〒110-0016 東京都台東区台東1-38-9  
http://www.tokuyama-dental.co.jp TEL 03-3835-7201

大会長：松崎正樹(新潟県歯科医師会常務理事)  
主 管：小林 博(新大)

“歯科補綴環境の安全管理”というテーマで生涯学習公開セミナーを併催しました。演題講師は次のようなものでした。1) 歯科治療において発生する有害物質による曝露防護—特に補綴治療に関して— 田中 茂教授(十文字学園女子大学人間生活学部食物栄養学科公衆衛生学研究室) 2) 歯科補綴治療における感染対策 高木律男教授(新大口外)。石綿, クリストバライト, レジンモノマー, 細菌, ウイルスなどに対する環境対策, ユニバーサルプレコーションについての一般的な説明をしていただき会員にとっても, 一般歯科医師にとっても有意義なセミナーでした。

一般演題には 10 題の発表があり, 参加人数は 91 名と多くはありませんでしたが活発な議論が行われました。次回大会は, 日歯大新潟の渡邊文彦先生のご担当で栃木県で開催される予定ですが詳細は決まっていません。(主管 小林 博)

#### 平成 18 年度九州支部学術大会



会場の様子

平成 18 年 10 月 22 日(日)日本補綴歯科学会九州支部・平成 18 年度総会および学術講演会が鹿大の田中卓男教授を大会長として, 鹿児島大学医学部創立 50 周年記念会館にて開催されました。今回の学術講演会では特別講演が 2 題, 一般講演 12 題, 認定医申請プレゼンテーション 2 題が組み立てられておりました。特別講演として鹿大法文学部人文学科教授の木部暢子先生が『鹿児島方言について』とアラバマ大学バーミングハム校歯学部補綴・バイオマテリアル教室客員教授の鈴木司郎先生が『補綴処置に貴賤はあるか?』と題して講演をされました。鈴木先生にはご専門であるレジンによる修復の価値あるいは意義をセラミック修復と対比され, 長年の経験をふまえてわかりやすく解説していただきました。

また, 今回は前日に大学間の親善ソフトボール

大会と懇親会が久しぶりに開催されました。以前は恒例の行事でしたが, 最近では前회가中国・四国支部との合同での支部会でしたし, その前も沖縄など地方での開催をしたこともあり, ソフトボール大会はほんとうに久しぶりで, 大いににぎわいました。(広報 佐藤博信)

#### 平成 18 年度東北・北海道支部学術大会



会場の様子

平成 18 年度の学術大会は, 山形県歯科医師会の全面的なご協力を得て, 山形県歯科医師会歯科医学会との併催で 10 月 28 (土), 29 日(日)の両日, 山形国際交流プラザにて開催いたしました。本支部では, 本学会活動の周知ならびに歯科補綴学に関する啓蒙を図るべく, 歯学部が存在しない山形県, 秋田県, 青森県において支部学術大会を開催することを数年来思案してきましたが, このたび渡邊 誠支部長のご尽力, ご指導のもと, 初めて開催することができました。

両日合わせて 100 名近い山形県歯科医師会会員の先生方にご参加いただき, 活発にご質問, ご意見等も頂き, 一定の成果はあったものと感じています。とりわけ 29 日には, 生涯学習公開セミナーとして「補綴治療の長期経過—臨床と文献から学ぶ—」をテーマに, 全部床義歯補綴に関し岩医大の鈴木哲也教授, クラウンブリッジに関し北大の大畑 昇教授, また部分床義歯に関しては私が講演を行いました。座長は北大の横山敦郎教授と, 歯科医師会学術委員であり本学会員である鈴木 基先生のお 2 人をお願いしシンポジウム形式で, 臨床に則しながらかつデータに基づいた内容のセミナーとなりました。さらに特別講演として本学会会員で仙台市ご開業の菅野博泰先生から「パーシャルデンチャーの臨床から—過去の遺物と考えるのか—」と題したご講演を頂きました。先生の長年にわたる臨床に基づいたお話しは, 大学人にとってもご開業の先生方にとっても大変有



意義なものでした。28 日夜は懇親会にて観光協会推薦の舞子さん方を交え、支部会員と地元の先生方との交流を深めることができました。最後になりますがご協力をいただいた山形県歯科医師会佐藤博嗣会長、富田 滋学術理事に感謝申し上げます。  
(大会長 佐々木啓一)

#### 平成 18 年度東京支部学術大会



佐藤大会長と石上支部長

平成 18 年 11 月 11 日（土）に昭和大学上條講堂において大会長の佐藤裕二教授（昭和大）のもと、（社）日本補綴歯科学会東京支部総会ならびに第 10 回学術大会と生涯学習公開セミナーが開催されました。

特別講演は、村岡正弘先生（東京都開業）に『プロフェッショナルの流儀—オリコン No. 1 歯科医院のコンセプト—』と題した従来の補綴学会の切り口とは全く異なる観点で、お話をいただきました。開業医の現状を歯科医師会の資料を基に分析され、今後への指針も示されました。開業を目指す若い先生方には大変参考になる講演だったかと思われます。

さらに、一般口演 16 題、ポスター発表 1 題、専門医認定プレゼンテーション 5 題の発表がありました。一般口演では質疑応答の時間を 5 分間採ったことと座長の先生方の巧みな司会で、大変活発なディスカッションが行われました。

学術大会終了後、午後 5:00 から開催された生

涯学習公開セミナーでは、『あなたの補綴治療システムは「超高齢社会」に対応できるか』をメインテーマに 2 名の先生が講演されました。「有病者のリスクマネージメント—聖路加ライフサイエンスセンター構想の関わりの中なかで—」と題して馬見塚賢一郎先生（東京都開業）が訪問治療を中心に、高橋浩二先生（昭和大口腔リハビリテーション科科長）が「摂食嚥下障害のマネージメント—歯科医院でできる嚥下障害のスクリーニング—」のタイトルで実習も含めた講演が行われました。

今回の学術大会は（社）東京都歯科医師会の後援を受けており、あいにくの冷たい雨が降るなかでしたが学会員以外の先生方も多数参加されていて、大会は盛会裡のもとに終了しました。

(広報 北川 昇)

### 専門医制度 Q & A

Q1：認定医制度が専門医制度に変更になりましたが、おもな変更点を教えてください。

A1：新規申請に関しては、提出すべき症例（補綴治療を終了した症例、様式 8）が 5 症例から 10 症例に増えました。また、更新時の最低必要単位が、30 単位から 40 単位に増えました。

Q2：今年度（平成 18 年度）更新時期を迎えますが、申請時に 40 単位に満たしません、どうすれば良いのでしょうか。

A2：すでに、学会誌、HP での案内のように、今年度（平成 18 年度）更新時期を迎える先生（認定期間が平成 19 年 9 月 31 日までの先生）に限っては、更新手続の 1 年間の延長を認めます。ただし、認定期限の延長は有りません。すなわち、次回の更新は 4 年後となりますので、御注意ください。

Q3：現在いまだ認定医ですが専門医に変更したいと思っています。どうすれば良いのでしょうか。

A3：すでに、学会誌、HP での案内のように、平成 17 年度までに認定医を 1 回以上更新済みの先生は、自動的に専門医へ変更されています。それ以外の先生は、次の 2 通りの方法があります。1. 専門医への変更願（既定の様式はない、氏名、所属、住所を明記のこと）に認定医登録証のコピーと 5 症例（補綴治療を終了した症例、様式 8）を添えて、事務局へ申請して下さい。直近の認定審議会で承認後、実費にて発行いたします。2. 次回の更新時に、専門医の更新を行って下さい。

Q4：専門医申請時の様式 7、8 の記載法を教えてください。

Happy Smiles & Heartful Communication

MORITA

**デンタルエステをはじめませんか**

- 審美性を追求し、自然感のある透明性と優れた色調再現性を実現しました。
- 操作性と研磨性を向上しました。
- 専用のガラスファイバー「EGファイバー」を用いることで、メタルフリーブリッジの製作を可能にし、臨床用途を拡大しました。

**ハイスリッド セラミック**

**エステニア C&B**

■ 標準価格 スタンドセット 128,000円  
● 医療機器承認番号 21500BZZ00534

製造販売元 クラレメディカル株式会社  
販売元 **株式会社モリタ**

東京本社 東京都台東区上野2-11-15 〒110-8513 TEL: 03-3834-6161  
大阪本社 大阪府吹田市垂水町3-33-18 〒564-8650 TEL: 06-6380-2525

● 掲載商品の標準価格は、2006年4月21日現在のものです。  
標準価格には消費税等は含まれておりません。

www.dental-piaza.com

- A4：診断の欄には、保険病名（MT, P, Per のようにアルファベットの略号）は不可です。学会で認められている正式な診断名を記載してください。また、症例の主題の欄には、病態が理解できるように簡潔に記載してください。治療内容と経過につきまして、日付と内容を箇条書きで、簡潔に記載してください。
- Q5：学会等の出席で獲得できる研修単位を詳しく教えてください。
- A5：専門医制度施行細則（雑誌巻末やHPに掲載されている）に記載されているように、本学会学術大会、各支部学術大会、併催国際学会、専門医研修会は4単位、生涯学習公開セミナー、関連学会は、2単位となっています。
- なお、第116回学術大会は、AAPと併催されますので、合計8単位が、専門医研修会へも出席すれば、総計で12単位が獲得できます。
- Q6：専門医の申請、更新に必要な発表、また指導医の申請時に必要な業績について教えてください。
- A6：発表、業績として認められるのは、補綴学会のみならず、学術団体として以前の日本学術会議に登録されていた学会で、内容が歯科補綴学に関するものであれば認められます。それ以外の場合には、業績をお送りいただき、事前に委員長が判断することになっています。
- Q7：指導医の申請の際に必要な業績について教えてください。
- A7：指導医の申請には、申請時から遡り5年の間に歯科補綴学に関する論文（筆頭、共著を問わない）が1編、必要です。当該論文は補綴学会雑誌以外でもA6の条件を満たせば認められます。
- Q8：更新申請を忘れた場合について教えてください。
- A8：更新は認定期限日の1年前から6カ月前までに行うことになっていますが、認定期限日を過ぎても6カ月以内であれば単なる申請忘れとして、更新申請を受け付けております。それ以上の期間が経過した場合、資格は失効となります。
- Q9：歯科補綴専門医であることを名刺や電話帳に広告しても良いですか。
- A9：現在、厚生労働省へ認可申請をしているところですので今しばらくお待ちください。広告できるようになった場合は、本学会ホームページや雑誌でお知らせ致します。

（認定審議会委員長 古屋良一）

## 受賞者の声

（社）日本補綴歯科学会第115回学術大会  
課題口演コンペティション優秀賞



雨宮三起子（阪大）

「全部床義歯装着者における口腔立体認知能と咀嚼能力との関係」

この度は第115回学術大会課題口演コンペティションに選んでいただきまして、誠にありがとうございました。

ございました。

今回発表させていただいた内容は、全部床義歯装着者における口腔立体認知能と咀嚼能力との関係についての研究結果です。本研究では、全部床義歯装着者において口腔の感覚機能は、最大咬合力とともに、咀嚼能力に対して大きな影響を及ぼしていることが明らかとなりました。このことから、患者の口腔の感覚機能を評価することは、義歯装着後の咀嚼能力を予測し、治療のゴールを設定するパラメータとして臨床的に有用性が高いのではないかと考えています。

また、今回の発表内容は博士論文の一部であり、4年間の大学院での研究の結果です。その発表に対しましてこのような賞を頂き、喜びもひとしおです、本当にありがとうございました。

最後になりますが、本研究の機会を与えて下さり、常に叱咤激励して下さいました野首孝詞名誉教授、多大なるご指導を頂きました池邊一典講師をはじめ、医局員の諸先生方、そして被験者の皆様に心より感謝を申し上げます。ありがとうございました。



洲脇道弘（岡大）

「Nasal Speaking Valve：鼻咽腔閉鎖不全に伴う構音障害改善装置の開発」

この度は第115回学術大会課題口演コンペティションの受賞者に選出していただき、大変光栄に存じます。

今回われわれは、鼻咽腔閉鎖不全に伴う開鼻声を改善する新たな装置についての発表を行いました。発声発語機能に関しては、言語聴覚士の先生方が主体となって臨床・研究をされています。われわれはこの研究を行うにあたり、川崎医療福祉大学および岡山市の言語聴覚士の先生方と共同で進めてまいりました。このように他職種の先生方と関わることは私にとって非常に良い刺激となり

ました。言語聴覚士の先生方も歯科医師特に補綴科医との連携を必要とされており、今後より一層連携が強化されることを期待しています。

最後に本研究を進めていくにあたってご指導いただいた皆木省吾教授をはじめ、当咬合・口腔機能再建学分野および川崎医療福祉大学感覚矯正学科各先生方に深く御礼を申し上げますとともに、今後の一層の努力を皆様にお約束いたします。



日浅 恭 (広大)  
「リン酸化 RGD ペプチドによるインプラント表面改質のナノレベル解析」

このたびは、第 115 回学術大会課題口演コンペティション優秀賞をいただき誠にありがとうございます。これまでの成果をこのように高く評価していただき大変光栄に思っています。

チタン製インプラントの表面性状は、オッセオインテグレーションの早期獲得を確実にするため、物理化学的表面改質により進化してきました。このことは臨床成績を飛躍的に向上させ、インプラント治療の安全性が広く認知されることに貢献しています。一方で、オッセオインテグレーションの獲得における早期負荷や即時負荷は、母床骨の質や量に影響され、その確実性に不安を抱えるなか、チタン製インプラントにはさらなるイノベーションが求められています。われわれはこの観点に立脚し、オッセオインテグレーションの安全で確実な早期獲得を目指し、生化学的手法によるチタン製インプラントの表面改質を研究してきました。その根幹となる研究をこのように高く評価していただいたことは、これから研究を進めていくうえで大きな励みとなります。今後も目標に向かって邁進する所存です。

最後になりますが、このような機会を与えてくださった本学先端歯科補綴学研究室赤川安正教授、生体材料学研究室岡崎正之教授ならびに平田伊佐雄博士、岡山大学大学院医歯薬学総合研究科生体材料学分野鈴木一臣教授ならびに吉田靖弘助教授に感謝するとともに、終始ご指導を賜りました当教室阿部泰彦講師に厚く御礼申し上げます。



依田信裕 (東北大)  
「オーバーデンチャー支台インプラント荷重の三次元解析システムの開発とその生体応用」

このたびは、第 115 回学術大会課題口演コンペティション優秀賞に選出いただき、大変光栄に思います。本当にありがとうございました。

本研究は、三次元小型水晶圧電式センサをインプラント上部構造内に組み込み、機能時にオーバーデンチャー支台インプラントに加わる荷重を、生体において三次元的にリアルタイム測定し、かつ顎顔面基準座標に沿って解析したものです。支台インプラントに加わる荷重は、インプラント義歯治療の予知性の向上に大きく寄与すると考えられており、本研究は、生体力学的根拠に基づくインプラント義歯治療の設計指針の確立のための一助となると考えられ、非常に将来性があり、今後の発展が楽しみな研究であると思っております。この受賞を励みにして、これからますます研究を展開していく所存です。

研究を遂行するにあたり、指導教員として終始ご指導下さいました川田哲男先生、精密な技術が必要とする本口腔内測定システムの開発の際に、多くの助言をいただきました東北大学大学院工学研究科ナノ加工学分野の厨川常元教授、そしてこのような素晴らしい研究に携わる機会を与えて下さり、ご懇篤なるご指導およびご教示頂きました佐々木啓一教授に心から厚く御礼申し上げます。



玉置勝司 (神歯大)  
「精神的な問題を有する歯科外来患者に関する研究—かみ合わせ外来患者の統計学的解析—」

このたび、歴史ある日本補綴歯科学会からこのような素晴らしい賞をいただくことができましたことを深く御礼申し上げます。

また発表の機会を与えてくださいました主任教授豊田 實教授に、そして共同研究者として丁寧なご指導をいただきました和気裕之先生、宮岡等先生、宮地英雄先生に深く感謝の意を表します。

この課題は歯科界では長年触れられてはいなかった未知の領域ではなかったかと思えます。ところが世の中の流れとともに、患者様のニーズというよりは、歯科医師サイドからのニーズが出てきたようなテーマだと思えます。このような患者様を一体どのように対応したらいいのだろうか？

あるいはどのように診査，診断したらいいのだろうか？そしてどのように歯科治療を行ったらいのだろうかというような，きわめてストレートな疑問からではないでしょうか？かみ合わせ外来ではこのような患者様を目の当たりにして，これまでの歯科医療に欠けていた新たな領域であると感じ，患者様のためにも，また一生懸命歯科医療に取り組む歯科医師の先生方の少しでもお役に立てればという気持ちで，今回のようなテーマで臨床に精神医学を導入し取り組んでまいりました。

今後も，精神的な問題を有する患者様に対する歯科医療システムについてさらに検討し，歯科医療の質の向上に役立てるよう努力していきたいと考えております。また同時に補綴学会会員皆様から多くのご指導をいただきたいと考えております。



松田謙一（阪大）  
「高齢者における咬合力と唾液分泌速度との関係」

この度は第 115 回学術大会課題口演コンペティションの受賞者に選出していただき，大変光栄に思っております。今回発表させていただいた内容は，学位論文として取り組んできたテーマであり，4 年間の総まとめとしての発表が評価されたことは非常に嬉しく思います。

唾液分泌低下によって引き起こされる口腔乾燥は高齢者の 4 人に 1 人が感じているといわれています。また，唾液分泌低下は嚥下障害，咀嚼障害，発音障害，齲蝕や歯周病の増大，義歯装着困難などに関与しており，歯科治療において実に大きな問題となっています。

今回，咬合力の低下が唾液分泌速度の低下の原因として重要であることを発表させていただきました。唾液分泌の低下を防ぐにはしっかりと咀嚼し，味わって食事をすることが大切であり，そのためには適切な補綴治療が必要不可欠であることはいうまでもありません。今後は補綴治療前後の唾液分泌速度の経時的な変化について検討し，補綴治療によって唾液分泌が向上するというエビデンスを示したいと考えています。

未筆ながら，本研究の機会を与えてくださいました野首孝祠名誉教授，また多大なるご指導をいただきました大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座の池邊一典講師をはじめ，多くの貴重なご意見をいただきました共同発表者の先生方に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

(社) 日本補綴歯科学会第 115 回学術大会  
デンツプライ賞



末永華子（東北大）  
「部分床義歯床下粘膜面に加わる圧力の生体内多点同時測定」

この度はデンツプライ賞の栄誉を賜り，大変光栄に思います。本当にありがとうございました。

インプラント治療が年々増加の一途を辿っておりますが，そのなかにあってもまだまだ義歯の需要は多く，また，これからも決してなくなることはなく，その重要性は大きいと考えております。今回のポスター発表においても，多数の先生方が質問しにきてくださり，義歯床下の負担圧分布については，本当に多くの先生方が実際の臨床の現場において普段から疑問・興味をおもちなのだということに改めて実感することができました。

本研究の最大の強みは，実際の患者様における生体計測であり，その結果を臨床に直結して役立てていけるという点にあります。研究は，被験者となっていたいただいた患者様の大きな協力のもとで行うことができます。まだまだかけだしの段階ですが，今回の受賞を励みとして，1 日も早く患者さんに還元していけるよう邁進していく所存です。

最後になりますが，このような機会を与えてくださった東北大学大学院歯学研究科口腔システム補綴学分野の佐々木啓一教授に深謝するとともに，本研究の遂行にあたり終始ご教示，ご指導頂きました川田哲男先生，久保圭先生，および実験にご協力頂きました被験者の方に厚く御礼申し上げます。



小島規永（愛院大）  
「DNA マイクロアレイ法を用いたインプラント周囲の遺伝子発現の解析」

この度は，第 115 回学術大会のデンツプライ賞をいただき，大変光栄に思います。今回受賞させていただいたことにより，今後の研究の励みにも自信にもなりました。ありがとうございます。

今回の発表内容は，オッセオインテグレーションにおける分子生物学的メカニズムを解明することを目的としております。オッセオインテグレーションに関連する遺伝子を DNA マイクロアレイを用いて網羅的に解析するため，ラット大腿骨を

用いて、実験用チタンインプラントの埋入の有無による遺伝子発現の違いを *in vivo* で検討しました。

今回の研究では、インプラント埋入後初期のみに、インプラント周囲骨に高いレベルで発現した遺伝子は 20,496 遺伝子のうち、Hyaluronan and proteoglycan link protein 1 (Hapln 1) のみであり、インプラント周囲骨に発現レベルの高い遺伝子の多くは、インプラント埋入後中期～後期に発現したものであり、オッセオインテグレーションに有用である遺伝子を多く含んでいました。インプラント埋入後中期～後期、すなわち、骨組織が組織学的に未熟である中期と、オッセオインテグレーションを獲得する後期は、オッセオインテグレーションの分子生物学的メカニズムを解明するうえで特に重要な時期であることが示唆されました。また、インプラント周囲骨に発現レベルの低い遺伝子の解明や Hapln 1 を始めとする機能が未知の遺伝子についての解明が必要であることが示唆されました。

オッセオインテグレーションに関する分子生物学的メカニズムをより明確に定義し、その機能と維持を詳細に把握する必要があります。そのためにも、本研究は臨床と直結したものではありませんが、このような分子生物学的アプローチが重要であると考えます。

このような機会を与えて下さり、終始ご懇篤なご指導とご校閲を賜りました愛知学院大学歯科補綴学第一講座の田中貴信教授、尾澤昌悟助教授に心から感謝の意を表すとともに、多くの助言を賜りました UCLA 歯学部ワイントロープセンター、小川隆広助教授に厚く御礼を申し上げます。



飯田 務 (阪大)  
「破骨細胞分化における脱リン酸化酵素 Calcineurin の関与」

このたびは、第 115 回学術大会デンツプライ賞の受賞者に選出していただき、大変光栄に存じます。

今回、受賞させていただいた破骨細胞分化に関する研究は、大学院生として大変に興味をもって進めてきたものでありますのでとても嬉しく思います。

歯科治療において、義歯床下の顎堤吸収、歯周病や抜歯に起因する骨吸収等を抑制し、顎堤を保存することは、非常に重要な課題であります。骨吸収を行う細胞として知られている破骨細胞の過剰な活性化により、非生理学的メカニカルストレスによる骨吸収や、炎症性骨吸収が生じると考えられております。

本研究は、破骨細胞の分化を制御する細胞内シ

グナル伝達を解明する過程において、破骨細胞分化に Calcineurin が関与していることを明らかにしました。臨床応用に至るまでには長い道のりがありますが、この制御系に作用するような薬物等の開発により、不要な骨吸収が抑制され、補綴歯科治療のみならず医療全般の一助となるものと期待しております。

最後になりましたが、このような機会を与えて下さり、現在もご指導頂いております大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座の矢谷博文教授、江草 宏先生、同顎口腔病因病態制御学講座の上崎善規教授、佐伯万騎男先生に心より感謝いたしますとともに、研究にご協力頂いております先生方に厚く御礼申し上げます。



森山 泰子 (九大)  
「Statin 局所投与がインプラント周囲骨形成に及ぼす効果」

この度、第 115 回学術大会デンツプライ賞を受賞させていただき、ありがとうございました。

当研究室では、高脂血症治療薬として広く使用されている“スタチン”の骨形成促進作用に注目し、歯科領域の骨再生に関するさまざまな研究を行っておりますが、今回はインプラント埋入部位に局所投与し、その有用性を確認しました。本研究では、埋入初期のインプラント周囲骨密度の向上、そして新生骨の石灰化促進が示唆されたことから、骨質条件の悪い歯槽骨においても容易にインプラント治療が適応されるなど、さらなるインプラント治療の拡大に一翼を担うことができるのではないかと考えております。臨床応用を実用させるまでには多くの課題が残されており、現在すでに次の段階に取り組んでおりますが、われわれのこの研究が歯科再生医療の発展に寄与できればと思っております。

最後に本研究を進めていくにあたってご指導いただきました古谷野 潔教授、鮎川保則講師をはじめ、当咀嚼機能再建学分野の先生方に深くお礼を申し上げますとともに、今後さらに有意義な研究活動に精進してまいりたいと考えております。



園山 亘 (University of Southern California, 岡大)  
「根未完成永久歯における新規間葉系幹細胞の同定」

このたびは第 115 回学術大会デンツプライ賞をいただき、たい

へん光栄に思っております。今回賞をいただきました研究は、私が岡山大学在籍中に携わっておりました研究を基礎とし、2004年2月から2006年3月までの米国国立衛生研究所(NIH/NIDCR)、ならびに2006年4月から2006年9月までの米国南カリフォルニア大学顎顔面分子生物学研究所(USC/CCMB)への留学の成果をまとめたものです。

歯の再生は歯科補綴学のみならず、歯科全体の目標といっても過言ではないと思います。私の留学中の指導教官である Dr. Songtao Shi はヒト歯髄と歯根膜から組織幹細胞を同定しており、今回私は彼の指導のもと根末完成永久歯より新規の組織幹細胞(Stem Cells from Apical Papilla: SCAP)を同定しました。この新規幹細胞 SCAP は歯髄幹細胞よりも細胞分裂能に優れており、免疫不全マウスへの移植実験では優れた象牙質形成能を有していることを明らかにしました。今後もこの受賞を励みとし、この SCAP や歯髄幹細胞、歯根膜幹細胞を用い、機能的な歯の再生医療を目指し精進していこうと考えております。

最後になりましたが、本研究をご指導いただきました Dr. Songtao Shi と研究室のメンバー、ならびに快く留学に送り出してくださるとともに、終始多くのご助言を頂きました岡山大学の窪木拓男教授に厚く御礼を申し上げます。

## 関連学会報告

### 第21回 AAA 学術大会 (The 21<sup>st</sup> Annual Conference of the American Anaplastology Association)

American Anaplastology Association (AAA: Anaplastology is defined as the art and science of restoring human anatomy by artificial means) の2006年度学術大会(第21回)が、大会長 Robert Robinson Jr. のもと、2006年8月18日(金)から21日(月)まで、米国イリノイ州 Chicago の Courtyard by Marriot Chicago Downtown において、開催されました。

初日の Poster Presentation では10題の発表があり、日本からも“Additional Retention of an Auricular Prosthesis Provided by a Titanium Stent Resting in the External Auditory Miatus”(Nishikawa, Hokkaidou)と“An Analysis of the Present Status of Maxillofacial Prostheses in Japan-Based on a Questionnaire Survey of Dental Technicians”(Iwata, Kyoto)の発表が行われました。2日目からは Scientific Program が始まり、顔面リハビリテーションに関わるさま

ざまなテーマで論じられました。3日目の午後は American Head and Neck Society との joint session が行われました。4日目には work shop が行われ、顔面印象の実際や内部彩色の高度なテクニックなど、実践的な討論も行われました。

次期(第22回)大会は2007年9月に Washington, D.C. にて開催されることが発表されました。(東医歯大 吉岡 文)

### 第7回国際顎顔面リハビリテーション学会



会場の様子

The 7th International Congress on Maxillofacial Rehabilitation が、International Society for Maxillofacial Rehabilitation (ISMR, 大会長 John Beumer, III) と American Academy of Maxillofacial Prosthetics (AAMP, 大会長 Rhonda Jacob, 第54回 AAMP 年次大会) との joint meeting として、2006年10月12日(木)から15日(日)まで、ハワイ、マウイ島の Grand Wailea Resort Hotel & Spa において開催されました。

Scientific Program は3日間行われ、Implants in Maxillofacial Prosthetics Craniofacial and Oral Reconstruction, Chemoradiation: Treatment and Sequelae, Clinical Outcomes-Quality of Life, Rapid Prototyping/Bone Implant Interfaces の4分野で口頭発表が行われ、50題のポスター発表が行われました。顎顔面補綴学のみならず、化学療法や放射線治療に関するテーマで論じられました。

日本からは、北海道大学、神奈川歯科大学、鶴見大学、日本大学、東京医科歯科大学、愛知学院大学、大阪大学、徳島大学、九州歯科大学、佐賀大学が参加し、口頭発表やポスター発表を行い、Competition Poster Presentations では、the third prize に“Development of a Light-Weight Facial Impression Technique”(平井先生、愛院大)が選ばれました。最終日、地震による影響で一部プログラムが変更されましたが、無事に終了しました。

The 8th International Congress on Maxillofa-

cial Rehabilitation は 2008 年にタイで開催される予定です。(広報 谷口 尚)

第 36 回(社)日本口腔インプラント学会学術大会  
第 26 回(社)日本口腔インプラント学会関東甲信越支部学術大会



オープニングの特別講演を行った  
佐藤直志先生



特別講演(総括講演)  
を行った筒井昌秀先生



アジアセッションの各演者  
(日本, 韓国, タイ, 台湾)

平成 18 年 9 月 15 日(金)～9 月 17 日(日)の 3 日間、新潟市コンベンションセンター「朱鷺メッセ」において第 36 回社団法人日本口腔インプラント学会学術大会を関東甲信越支部主管で、日本歯科大学新潟生命歯学部、新潟再生歯学研究会が担当して、畑 好昭大会長のもとで開催致しました。参加者は海外からドイツ、スイス、イスラエル、米国、タイ、中国、台湾、韓国の 8 カ国 60 数名を含む 1,800 名でした。メインテーマは先進展開するインプラント治療、サブテーマは人種、食生活によりインプラント治療に違いはあるかとのテーマで行いました。今回の学術大会は学会が社団法人化されて、初めての開催であり、学会会員はもちろんのこと、関連他学会、海外からも大きな関心が寄せられていました。学術大会前日、9 月 15 日には午前 9 時より午後 6 時まで、学会の認定医のケースプレゼンテーションが行わ

れ、発表者数は 111 名という多数の発表でした。翌日は午前 8 時 50 分に、学術大会開会式が行われ、9 時から 2 日間の学術大会がスタートしました。特別講演 4 演題、招待講演 1 演題、教育講演 1 演題、シンポジウム 3 演題、技工セッション、衛生士セッション、市民フォーラム、ランチョンセミナー等、また一般発表は課題講演 20 演題、一般講演 98 演題、ポスター(認定ケースプレを含め)124 演題と過去最大の学術大会となりました。特別講演、招待講演、教育講演、シンポジウムは日本語から英語、英語から日本語の同時通訳を行い、国内外の演者、出席者の活発な質疑が行われました。特にアジアの国々から多くの演者を招聘し、アジアでのインプラント治療の会議の場の必要性がアピールできました。

(準備委員長 渡邊文彦)

第 20 回日本顎頭蓋機能学会記念学術大会

平成 18 年 9 月 23, 24 の両日、日本顎頭蓋機能学会(会長:川添堯彬教授)の第 20 回記念学術大会を、岡大院顎口腔機能制御学分野の主管のもと、岡山市にて開催させていただく機会を得ました。ご存じのとおり、本学会は口腔リハビリテーションに関する基礎、臨床的研鑽を通して、常に時代のニーズに敏感に反応しながら新しい歯科医療を模索してきた会です。

さて、高齢者が今後数十年にわたって増加するであろうことは、多方面で述べられていますが、歯科界の対応は、まだまだ具体性を欠いています。たとえば、高齢者が増加すると一言にいても、元気なご老人が増加するという側面と、要介護高齢者が増加するという側面があります。元気なご老人に対しては、さらに生活の質を向上させ、生きがいをもって社会に継続して貢献していただく必要があります。また、健康寿命の延長を通して、介護予防に注力しなくてはなりません。これは、ひいては医療費の抑制にも繋がるはずですが、一方、なんらかの原因で介護が必要になられた方の場合には、生活の質をなるべく落とさないように維持し、可能であれば、寿命を延ばすよう努力して差し上げなければなりません。その際には、われわれ医療従事者は生命の尊厳を守ることを忘れず、緩和ケアなど終末医療の充実を考慮に入れなければならないでしょう。このように、医療が全身健康に貢献すべき項目は多岐にわたっており、歯科が貢献できる内容も無尽蔵に広がっています。しかし、口腔ケアや NST 活動などにおける歯科の取り組みは、まだまだ十分に整理されて効率よく行われているわけでもなく、臨床エビデンスに

基づいて体系的に確信をもって行われているというわけでもありません。本学会では、今後の高齢化社会を見据えて、歯科医療がどのような形で貢献できるかを、口腔ケア、摂食・嚥下リハビリテーション、咬合リハビリテーションの3点から具体的に論じました。特に、市民公開シンポジウム、特別講演では、一般市民の方々はもとより医療関係者にも、口腔領域の感染制御と機能維持がいかに全身健康に結びつくかをご理解いただき、歯科医療の活躍の場を市民の内なる力(ニーズ)によって拡大することを目的としました。そのほかにも、山下 敦名誉教授の基調講演、シンポジウム2つ、ランチョンセミナー、歯科医師、言語聴覚士、歯科衛生士の方々によるテーブルクリニック、ポスター発表27題も含めた盛りだくさんの内容に、歯科医師のみならず、歯科衛生士、医師、看護師やその他のメディカルスタッフを含めた400名を超える参加者を得て盛会裡に終了することができました。このような学会活動が、医科、歯科はもとより、コメディカルスタッフ、コデンタルスタッフを交えた地道ではありますが、着実な高齢者医療の発展に繋がり、国民の健康を少しでもよりよくサポートできるようになれば法外の喜びです。(大会長 窪木拓男)

#### 第17回日本歯科審美学会学術大会

去る平成18年10月14、15日両日大井町「きゅりあん」にて開催されました。今回の主催は講座担当ということではなくあくまでも昭和大学歯学部を中心に医学部、薬学部、保健医療学部のお力をお借りした大学全体の主催といっても過言ではありません。とはいえ同日に横浜にてデンタルショーも開催されており主催者としては会員の皆様の足取りが気になったこともありました。しかしながらお蔭様をもちまして両日で650名という多くの先生、学生さんに参加していただきました。

特別講演を皮切りに、基調講演、教育講演、招待講演3題、海外招待講演、臨床、歯科技工士、歯科衛生士セミナー、さらにポスターセッション30題とたくさんのまた大変貴重な演題にも恵まれました。医科系総合大学にふさわしく美容整形の内容や歯科材料の安全性などいままでの審美学会では味わえない講演は会員の皆様から高く評価を受けたものと信じております。また、市民公開講座では女優早見 優や写真家ハービー山口を招き一般の方と会員の先生方との審美歯科医療の橋渡しも実現できたのではないのでしょうか。

一方、企業展示も約40社と多くの歯科関連会

社のみならず一般企業にもご協力頂きました。

このように万事大きな事故やトラブルもなく閉会できたことはひとえに多くの先生方、関係各社、コンベンションを担当していただいた口腔保健協会の各位に感謝いたしますとともに、さらなる審美歯科学会の発展をお祈りいたしまして日本補綴歯科学会へのご報告といたします。

(大会長 川和忠治、準備委員長 真鍋厚史)

#### 第16回日本磁気歯科学会学術大会



Prof. Angelo A. Capouto

平成18年10月28日、29日に香川県歯科医師会館(高松市)において第16回日本磁気歯科学会学術大会が佐々木英機先生(徳島県開業)を大会長として、「磁性アタッチメントの世界規格をめざして」をテーマに開催されました。今回は特別講演2題、一般口演25題とともに「磁性アタッチメントの最適化と国際標準の創成」と題してNEDO国際シンポジウムが併催されました。

特別講演として徳大の林 良夫教授が「免疫機能への磁場の影響」と題して、UCLAのProf. Angelo A. Capoutoが「Biomechanics of Magnetically Retained Prostheses」と題して講演されました。

一般口演では磁性アタッチメントの臨床例、技工術式、吸引力、腐食に関するものや、磁気の生体への影響、磁気を応用した計測に関する発表があり活発なディスカッションが行われました。

NEDO国際シンポジウムでは東北大学の奥野 攻教授を座長として9名のシンポジストが発表され、磁性アタッチメントの国際規格の確立も近いと思われました。

最後に平成19年3月1日から20日にかけて第6回国際磁気歯科学会がインターネット上で開催されます。参加料は無料ですので興味のある方はぜひご参加ください。詳細は日本磁気歯科学会のHP(<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jmd/>)をご覧ください。(徳大咬合管理学分野 郡 元治)

#### 第28回日本バイオマテリアル学会大会

平成18年11月27、28日の両日にかけて第28回日本バイオマテリアル学会大会が東京女子





ポスター会場

医科大学先端生命医科学研究所所長の岡野光夫教授を大会長として、「バイオマテリアルがブレークスルーさせる先端医療」をメインテーマに東京都内のアルカディア市ヶ谷（私学会館）にて開催されました。歯学、医学、薬学、理工学など“バイオマテリアル”に関わる各分野で活躍の臨床医、研究者が集い発表する学術大会です。大会長講演、2題の特別講演、3題の学会賞受賞講演、9題のシンポジウム、93題の一般演題、191題のポスターセッションの盛り沢山の発表があり、再生医療、ティッシュエンジニアリング、歯科材料、整形外科材料に関する非常に活発なディスカッションが行われました。特に“シンポジウムⅧ”は、亘理文夫教授（北大）、埴 隆夫教授（東医歯大）をオーガナイザーとして5名のシンポジストによる「材料のマイクロ/ナノサイジングと生体反応」という演題で、現在注目されているナノテクノロジーのバイオ応用と生体反応性に関する内容でした。このシンポジウムでは北大の横山敦郎教授がシンポジストとして「カーボンナノチューブの細胞内挙動」と題して、再生医療への生体材料としての応用を目指したカーボンナノ物質に対する生体反応や細胞培養用スカフォールドの開発についての講演をされ、有意義な討論がなされました。

再生医療がトランスレーショナルリサーチとして進化してきている現在、本学術大会では今後のわが国における再生医療の発展に向けた有意義な意見交換が行われたものと確信しました。

（岩医大歯科補綴学第二講座 武部 純）

## 海外留学先紹介

ノースカロライナ大学・  
デンタルリサーチセンター留学記

片淵三千綱（福岡歯科大学咬合修復学講座  
冠橋義歯学分野）

私は、2004年10月から2年間、アメリカのノースカロライナ大学・チャペルヒル校（UNC at Chapel Hill）、Dental Research Centerにある、山内三男先生のCollagen Biochemistry Laboratoryに留学いたしました。



ラボメンバー 片淵（左から2人目）と  
山内先生（左から5人目）

ノースカロライナ州は、アメリカ合衆国、南東部に位置し、UNCのあるChapel Hillは、大学を中心に発展した人口約44,000人の緑豊かな小さな文教都市です。また隣の市のDurhamにはDuke大学、そして、州都であるRaleighにはノースカロライナ州立大学があり、これら三大学によって囲まれた地域はリサーチ・トライアングルと呼ばれています。このなかには、米国環境健康科学研究所（NIEHS）や、さまざまな企業の研究所があり、研究面で非常に恵まれた環境にあります。

山内ラボでは、人間の生体内の主要な細胞外構造タンパク質であるコラーゲンにおいて、その代表的翻訳後修飾であり、コラーゲン繊維の三次元的構造の維持に寄与する架橋構造（クロスリンク）、ならびにこの形成に関与する酵素群について生化学的・分子生物学的手法を用いた研究を行っています。近年では、コラーゲンに結合し、その繊維形成を調整する各種プロテオグリカンが、骨芽細胞の分化にも積極的に関わっていることが明らかになり、その細胞外におけるBMPシグナルの制御に関する研究もトピックの一つとなっています。福岡歯科大学咬合修復学講座では、付着歯肉の幅が不十分な患者さんに対して、連続した組織である歯周粘膜を用いた再建法の開発を研究課題の一つとして挙げています。今回私は、その基盤となる研究として、両組織のコラーゲンの性質を生化学的に分析し、その量やリモデリングの速さに違いがあることを明らかにすることができました。

これらの研究を通して、研究における考え方を学ぶことができ、また、あたらしい事実を発見する喜びを知ることができました。すばらしい指導をくださった山内先生をはじめ、研究室の皆さんには心より感謝をし、人生においてかけがえのない時間を過ごせた喜びを感じています。

# 第 116 回大会の開催にあたって



井上 宏大会長



ポートピアホール

会長 井上 宏  
準備委員長 前田照太  
(大阪歯科大学欠損歯列補綴咬合学講座)

第 116 回学術大会は第 5 回アジア補綴歯科学会 (Asian Academy of Prosthodontics) と共催で行います。そのため今回の本学会の名称を「国際補綴歯科学会神戸 2007」として開催いたします。

開催日：平成 19 年 5 月 18 日 (金), 19 日 (土), 20 日 (日)

会場：神戸ポートピアホテル・ポートピアホール (ポートアイランド)

日本補綴歯科学会の創立以来、初めての神戸での学術大会となりますし、またアジア補綴歯科学会との初めてのジョイント・ミーティングで、これまでの学術大会とは違った雰囲気により大きく、より多彩なおもしろい学会にしたいと思っています。

今回の国際補綴歯科学会の役割と目標

- ・ 社団法人としての役割を果たすため、社会・国民に向けて補綴歯科治療による QOL や健康に貢献する学術的情報を発信する。
- ・ 最先端サイエンス (脳科学, 再生医学, コンピュータテクノロジー, ナノテクノロジー, ゲノム解析) を取り入れた歯科補綴学の新しい研究の成果と最新の臨床技術を提供する。
- ・ 21 世紀型の歯科補綴学の進化を目指し、その未来価値を追求する。
- ・ 多くのアジアからくる歯科補綴学者との交流をより広め、友好を築く。
- ・ 市民公開講座を催し、市民の皆様に健康科学に関する最新情報を提供し、歯科補綴の言葉の周知を図り、役割を理解していただく。

学術企画

**特別講演** 先端医療振興財団理事長の井村裕夫先生 (京都大学名誉教授) に「長寿社会と健康科学」と題してお話をいただきます。

**海外招待講演** クラウン・ブリッジについては Prof. SF Rosenstiel (Ohio 州立大学), デンタルインプラントについては Prof. NR Garrett

(UCLA) の今最も注目されている 2 人の先生が決まっています。

その他, AAP から Invited speaker として数人の先生からレベルの高い研究や臨床の講演をお願いしております。

**シンポジウム** シンポジウムⅠは日本口腔インプラント学会との共催シンポジウムです。「インプラントの咬合」をテーマとして現状の上部構造のあり方のコンセンサスが得られると思います。

シンポジウムⅡは「SDA に関するマルチセンターリサーチに関する報告」です。今までもこのテーマのシンポジウムでディスカッションがなされていますので、顎口腔系における機能的な役割と病態、そして補綴的な介入のあり方について結論が出るのが期待されます。

シンポジウムⅢは「咬合を取り巻く心身医学的な疾患・障害への理解」です。

その他に市民公開シンポジウムを企画しています。

**臨床スキルアップセミナー** 「接着ブリッジを成功させるために」をテーマとして取り上げ、予知性の高い接着ブリッジの基本技法を学ぶ絶好の機会となると思います。

**研究教育研修** 「統計解析を可能にする研究計画とは」をテーマとして企画しています。若手研究者にとっては必須のテーマと考えます。

**ランチンセミナー** メーカーや業者のご協力を得てランチンセミナーを 19 日 (土) と 20 日 (日) の両日に企画しています。参画企業の最も自慢の補綴関連の機材について昼食をいただきながら講演を拝聴したいと思います。

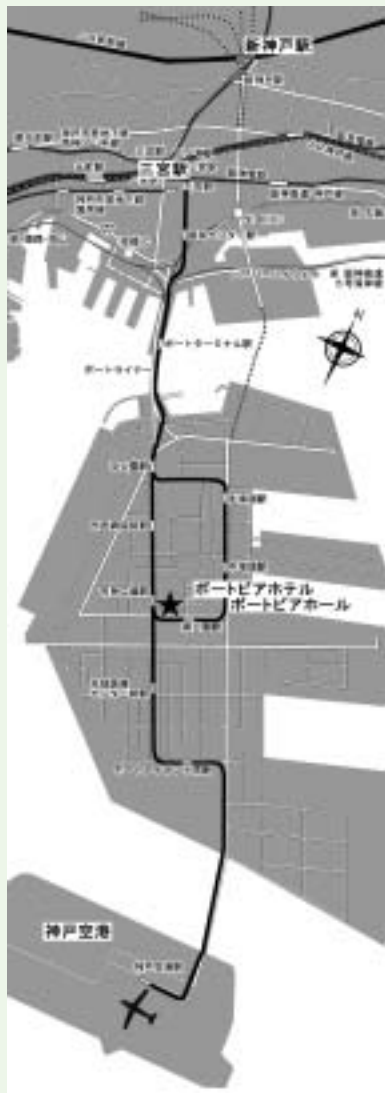
**歯科衛生士セッション** や **歯科技工セッション** を準備しています。20 日 (日) には **専門医研修会** で「全部床義歯の咬合接触のあり方」についての講演があります。

研究発表の形式

本学会会員の研究発表の形式は、口頭発表については課題口演だけとします。その代わりにできるだけ多く採用しますので、提示してある課題テーマに関する研究の応募をお待ちしています。したがって、一般発表はすべてポスター発表とします。国際セッションの発表は AAP での発表となりますが、第 116 回学術大会での発表業績としても認められます。

会場とアクセス

メインホールはポートピアホールで 1,700 人が収用できる美しく快適なホールです。デスク付



神戸アクセス

の椅子ですので、長時間にわたる特別講演，海外招待講演，シンポジウムを行います。大輪田 A, B, C という 3 つの部屋はスクール，シアターの組み合わせで 500~600 人程度の入れる広さで課題口演，シンポジウム，セミナー，公開シンポジウムなどに使用します。また，地下 1 階にある 4 つの部屋はすべてポスター発表として準備しています。ホテルでの開催ですので，費用が高くなりますが，美しく快適な雰囲気です満足いただける会場と思います。

アクセスは，2006 年 2 月に神戸空港（マリンエア）が開港し，7 都市（札幌，仙台，東京，新潟，熊本，鹿児島，沖縄）と連絡されております。神戸空港から会場まで 8 分でアクセスできます。新幹線新神戸駅より会場まで 20 分です。関西空港から神戸三宮までのリムジンバスで 65 分で行くことができ，また神戸空港まで高速船のベイシャトルで 29 分でアクセスできます。

神戸は港のある海と六甲山に囲まれた美しい街で，開催される 5 月は六甲山，北野の異人館街，瀬戸内クルージング，有馬温泉などの観光にも最高の季節です。また，神戸ビーフや中華街の中華料理などの食も楽しんでください。

ぜひ，国際補綴歯科学会神戸 2007 学術大会にご参加ください。

Let's meet in KOBE in May, 2007 !

## 関連学会案内

### 85th General Session & Exhibition of the IADR

日 時：2007 年 3 月 21 日（水）～24 日（土）  
会 場：Ernest N. Morial Convention Center, New Orleans, Louisiana, USA  
<http://www.iadr.com/meetings/neworleans/index.html>

### 第 49 回日本歯科理工学会学術講演会ならびに 第 25 回日本接着歯学会学術大会

日 時：平成 19 年 5 月 12 日（土），13 日（日）  
会 場：札幌コンベンションセンター  
大会長：大野弘機（北海道医療大学歯学部歯科理工学講座）

連絡先：〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢 1757  
北海道医療大学歯学部歯科理工学講座  
（準備委員長：遠藤一彦）  
TEL：0133-23-1957  
FAX：0133-23-1386  
E-mail：endo@hoku-iryo-u.ac.jp

### 第 18 回日本老年歯科医学会ならびに 第 25 回日本老年学会総会

日 時：平成 19 年 6 月 20 日（水）～22 日（金）  
会 場：ロイトン札幌・札幌教育文化会館・北海道厚生年金会館  
大会長：井上農夫男（北海道大学大学院歯学研究科口腔健康科学講座・高齢者歯科学教室）

連絡先：〒060-8586 札幌市北区北 13 条西 7 丁目  
北海道大学大学院歯学研究科口腔健康科学講座・高齢者歯科学教室  
（準備委員長：野谷健治，事務局担当：小林國彦）  
TEL & FAX：011-706-4582

### 第 18 回日本スポーツ歯科医学会学術大会

日 時：平成 19 年 6 月 30 日（土），7 月 1 日（日）  
会 場：沖縄産業支援センター  
大会長：高嶺明彦（沖縄県歯科医師会会長）

連絡先： 〒901-2134 浦添市港川 1-36-3  
(社) 沖縄県歯科医師会事務所内  
第18回日本スポーツ歯科医学会学術大会  
& 第4回日本スポーツ・健康づくり  
歯学協議会 (大会長：高嶺明彦)  
TEL：098-877-1811  
FAX：098-877-7925

### 第20回日本顎関節学会学術大会

日時：平成19年7月14日(土)～15日(日)  
会場：仙台国際センター  
大会長：渡邊 誠(東北大学大学院歯学研究科口腔機能形態学講座加齢歯科学分野)

連絡先： 〒980-8575 仙台市青葉区星陵町 4-1  
東北大学大学院歯学研究科口腔機能形態学講座加齢歯科学分野  
(準備委員長：服部佳功)  
TEL：022-717-8395  
FAX：022-717-8399

### 第37回(社)日本口腔インプラント学会学術大会

日時：平成19年9月14日(金)～16日(日)  
会場：熊本市市民会館・国際交流会館・産業文化会館  
大会長：添島義和(九州支部長)

連絡先： 〒860-0851 熊本市飼本町 3-14  
医療法人伊藤会伊藤歯科医院  
(実行委員長：伊藤隆利)  
TEL：096-343-0377  
FAX：096-341-1130  
E-mail：m.itoh@sysken.or.jp

## 編集後記

社団法人としてスタートした日本補綴歯科学会の進む道を広く会員、社会に発信することが今期の広報委員会の役割と考えました。

広報誌 Letter for Members は専門医制度に関する動きを伝え、年1回化になった学術大会報告など、その時々の熱き思いで充たされました。

また、社会に対する補綴の周知を推進するため、そして会員によるオンラインの手続きなどの学会活動を円滑に行うためにホームページの充実を図りました。社団法人に相応しい社会に向けての顔となり、会員間の交流を促進する場となりました。アクセス数も増加し、生きたホームページとして歩んでいます。

補綴への思いに溢れる見識の高い各委員、継続する力を発揮した幹事、そして誠実な事務局に恵まれての2年間でした。達成感をもって広報委員会活動を締め括るこ

とができますことを関係各位に心から感謝申し上げます。  
(広報委員長 石橋寛二)

ホームページのリニューアル、口腔保健協会への移設など、この2年で順調に行うことができました。学術大会の開催時の登録などの対応がよりスムーズになるものと思います。ご配慮いただいた執行部、事務局に御礼申し上げます。  
(副委員長 佐藤博信)

あっという間の2年間でした。経験豊富な委員長の下、素晴らしい委員の先生方と仕事ができ、心より感謝申し上げます。大変貴重な経験を得ることができました。今後も補綴学会の発展を心より祈念しております。  
(北川 昇)

ホームページは、作りっぱなしでは検索されません。常に新しい情報に更新していかないと、誰にも見られないホームページになってしまいます。われわれの学会ホームページは、「アドレスが変わりました」(2006年4月3日)から頻繁に更新されてきました。同年12月14日までに45回の更新、つまり月平均5回新しい情報書き加えられてきました。引き続き、社員各位からの情報提供をお願いいたします。  
(田中昌博)

広報委員として、ホームページ、ニュースレター等の企画制作に携わり、多くの経験、勉強をさせていただきましたことを感謝いたします。広報委員会活動が会員の皆様に役立ち、今後も発展することを願っております。  
(谷口 尚)

2年間、つたない記事を読んでいただいた会員の先生方、どうもありがとうございました。石橋委員長を始めとする広報委員の先生方どうもお世話になりました。皆様への感謝の言葉を私の編集後記とさせていただきます。  
(細木真紀)

学会が専門医制度へと動いた時の流れはあまりにも早く、2年間をあっという間に感じさせました。この時期にサポートできたこと、さまざまな先生方と出会えたことが私の誇りです。もっと補綴バカになりませんか！  
(金村清孝)

社団法人 日本補綴歯科学会 広報委員会  
委員長 石橋寛二 副委員長 佐藤博信  
委員 北川 昇 田中昌博 谷口 尚  
細木真紀  
幹事 金村清孝  
TEL：019-651-5111 (内4127)  
FAX：019-654-3281  
E-mail：kohoips@iwate-med.ac.jp  
〒020-8505 岩手県盛岡市中央通 1-3-27  
岩手医科大学歯学部歯科補綴学第二講座

2007年1月31日「ホームページアクセス10万件突破！」